

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第6回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 公の施設の使用料改定について（公開）
- (2) 今後の「公の施設の再配置計画」の取組について（公開）
- (3) 金谷山スーパーボブスレーの営業日の変更について（公開）
- (4) 次期総合公共交通計画の策定について（公開）
- (5) 飯公民館での出張地域協議会の議題について（公開）
- (6) 防犯協会・交通安全協会の所管区域について（公開）

3 開催日時

令和元年10月23日（水） 午後6時00分から午後8時36分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、
伊崎博幸、石野伸二、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、土屋博幸、
山口茂幸、吉村清正
- ・ 施設経営管理室：丸田副室長、宮澤主任
- ・ 行政改革推進課：大瀧課長、内山主事
- ・ 交通政策課：木南副課長、大熊主任
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・伊藤委員、牛木委員、竹内委員、永野委員、西条委員を除く 11 人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第 8 条第 1 項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：吉村委員、高橋委員に依頼
次第 2 「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料により説明

【高宮会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし

— 次第 3 報告（1）公の施設の使用料改定について —

【高宮会長】

次第 3 報告（1）「公の施設の使用料改定について」に入る。
施設経営管理室に説明を求める。

【丸田副室長】

- ・資料 No. 1 により説明

【高宮会長】

施設経営管理室の説明について質疑を求める。

【石野委員】

この改定は全ての個人・団体に当てはまる内容かと思う。昨今、福祉がいろいろな部分で話題になっている中で、市が認定する福祉団体などに減額措置ができないか。値上げは財政的に厳しいという団体も出てくると思うので、検討できるのであれば、ぜひ検討してほしい。

【大瀧課長】

総論的な話になるため、行政改革推進課から回答する。今でも、地域の活動や子どものスポーツ活動といった場合に使用料を減免する制度がある。現在の減免制度は引き続き行い、減免対象の福祉団体を拡大するかどうかについては検討したい。

【高橋委員】

南葉高原キャンプ場のテントサイト使用料は1張いくらとなっているが、この1張は昔のテントのサイズである。昔のテントは3～4人が寝られる程度のサイズだが、今はテラス付きの大きいものが多い。それでも同じ1張としての料金になることに抵抗を感じている。また、キャンプ場の職員が貸出用のテントを張ったり外したりすることがあるが、それに対する手数料はもらっていない。できれば、大本から検討してほしい。テント場は区画整理がされておらず、1張いくらとしか決めていないため、どれだけ使ってもよい。今、オートキャンプ場にする話が出ていて、それはやめてもらいたいが、今でも車をテント場まで上げている。車とテントをあわせると、面積的には昔の3倍～4倍近く使われているが、それでも同じ料金になる。値上げに関しては問題ないが、そちらの方が問題である。区画整理をきちんとし、大本から考え直してもらおうよう、農林水産整備課へ伝えてほしい。

【大瀧課長】

時代と共に、グランピングなどキャンプが豪華化し、オートキャンプも流行っているため、車の駐車や、大きめのテントが張られることもある。これからいろいろと検討する中で、区画の決め方や占有面積という概念も取り入れ、類似のオートキャンプ場等も参考にしながら検討を重ねていきたい。

【川住副会長】

南葉高原キャンプ場のテニスコートの料金が載っているが、テニスコートは現在使用できない状態だと思う。削除しておいた方がよい。

【大瀧課長】

施設を所管している農林水産整備課に確認して、川住副会長に連絡する。

【高宮会長】

次第3報告(2)「今後の『公の施設の再配置計画』の取組について」に入る。
行政改革推進課に説明を求める。

【大瀧課長】

・資料No.2-1～2-3により説明

【高宮会長】

行政改革推進課の説明について質疑を求める。

【石野委員】

資料No.2-2の公費負担額について、例えば中ノ俣診療所で年間約700万円、地球環境学校で約1,400万円となっているが、大まかな内訳を教えてください。

【大瀧課長】

中ノ俣診療所や地球環境学校の個別の内訳は、手元に詳細な資料がないため、この場ですぐに答えられないが、施設を維持するために必要な経費として光熱水費は入っている。人が配置されている場合は人件費、そして修繕料や、法定点検が必要な鉄筋コンクリートの建物については業務委託料などが代表的な経費である。

【石野委員】

あまりにも金額的にすごいなと思った。光熱費だけならたかが知れていると思うが、やはり人件費が一番大きいのか。

【大瀧課長】

そのとおり。人を1人設置するにしても、受付事務だけであれば100万円～200万円程度になるが、数百万円掛かる場合もある。また、指定管理という制度で、民間事業者や地元関係団体などに業務を全面的に委託する方法があり、その委託料として、全ての経費を指定管理者に支払う場合もある。金谷区の施設は千差万別であるため、1つ1つはこの場では申し上げられない。

【石野委員】

金谷地区公民館には事務員が1人いるが、公費負担額が約160万円であるため、1人当たりその程度かと思う。地球環境学校の公費負担額がその10倍近い金額になっているのは、人件費が相当掛かるのか、委託料が高いのか。

【大瀧課長】

地球環境学校の約1,400万円というのは、市で自然環境保護に関する研究業務を委託しているためであり、単純に建物を管理するだけの金額ではない。建物の維持管理の他に自然保護活動などをしてもらうため、その業務量に応じた人件費が掛かることから、金額が大きくなっていると思う。

【齋藤委員】

中ノ俣診療所は現在ほとんど閉鎖に近い状況であることから、週に1回～2回、市でバスを用意して市街地の病院まで送迎していると聞いた。特別待遇というわけではないが、他の地域から見ると疑問に思うため、なぜそのような形になっているか教えてほしい。

【大瀧課長】

施設の管理とは視点が違うため、私が答えられる範疇を超えるかもしれないが、合併前上越市の中で比較的交通の利便性が悪いところに診療所を設置したのが始まりだと聞いている。そして、中ノ俣だけではないと思うが、へき地医療に関する医療従事者が少ないため、週何回と開設日を絞ることになり、逆に施設が充実している市街地の病院に患者を送迎した方が効率がよいため、送迎という方法を取っているのではないかと。委員からは過剰ではないかといった意見があったが、当時の交通の利便性を勘案して始まった制度を踏襲していると思っている。いずれにしても、行政が行う業務というのは、公平・公正で、市民の皆さんの納得性が重要だと思っているため、事務事業について随時点検を行い、今後も検討を重ねていきたい。

【齋藤委員】

中ノ俣は自分で車を運転していても酔うぐらい遠い。冬場も綺麗に除雪してあって、なかなか配慮されていると感じる。集落1つ維持するために、かなりのお金が掛かっている。過疎地域は、桑取や正善寺の奥にもある。13区を見ても、そのようなところばかりである。しかし、できるところからきちんと始末していかないといけない。資料No.2-1の「現状」として、財源不足のほか、公の施設の多くが老朽化しており、維持管理経費と更新費用の増加により今後40年間で約4,325億円とある。10年間で約1,000億円になる。これは維持管理だけである。本

当に、大鉦を振るっていくしかない。人口も21万人から14万人になるということで、かなり厳しい見方をしている。30%以上の減であり、大変な局面になる。そのようなことを考えれば、今回はもっと経費を削ったり料金の値上げをしたり、あるいは施設を廃止するところは廃止して、抜本的な提案をしてもよいのではないか。皆さんに納得してもらえるよう、全体的に細かく検討して、いろいろと苦労されているのは分かる。無難な数字であるため特に異論はないが、市にとって、そして住民にとって、本当にこれでよいか疑問である。

【大瀧課長】

今後40年間の維持・更新費用試算額の約4,325億円は、今後40年間、700余りある施設を全て保有し、更新時期が来たら全て建て替えるための費用として試算した。

いろいろ意見をいただいたが、全般的にそのとおりで思っており、我々はその担当部署でもある。そうした取組を進めるためには、まず皆さんから信頼してもらうことが第一だと思っている。現在の状況をまずは皆さんに伝え、施設を整理するために、一緒に知恵を出して、次の世代のために協力してやっていけるよう、互いに納得感を得られるよう進めていきたいと考えている。

【高橋委員】

資料No.2-2の公費負担額は古過ぎるのではないか。南葉高原キャンプ場で約1,295万円となっているが、現在は4割減っている。これだけ掛かっているというのを説明するために、一番掛かった時の金額を表示しているのか。資料では「H26~28の3か年」となっているが、最近のデータはないのか。

【大瀧課長】

現在、平成29年度と30年度の分は調査中であり、まとまるのにもう少し時間が掛かる。今は平成28年までの3か年平均となっているが、数値がまとまった後、平成30年度や、場合によっては令和元年度の見込みを入れるなどして、より実態に近くなるよう、資料作りの中で配慮したい。いたずらに金額が大きいものを示しているのではないかと指摘があったが、決してそのような意図はない。全てにおいて、平成26年度から28年度までの3か年の平均である。

【高橋委員】

いずれにしても、市の施設というのは、市民のためのサービスの場所である。その市民サービスがだんだん低下するということは、大げさに言えば上越市が住みやすい場所でなくなるということである。市の施設がだんだん少なくなり、例えば、風呂に入りに行こうとしても温浴施設がない。廃止することができれば、経費が掛からなくなるため一番よいのだろうが、市民サービスというのは税金でやっているため、経費が掛かるのは当たり前である。それなのに、施設の経営を外部に発注すること自体、そもそも間違っている。財政が苦しいというのは分かるが、市民の憩いの場所などのサービスのなものがなくなり、医療関係でも全部そうなってくる。そのようなことをしていると、上越市は住みにくい町だと全国的に有名になってしまうのではないか。施設の利用料金を上げるのはよいが、市民サービスをやめるようでは、上越市は発展しないと思う。例えば、大潟体操アリーナは、維持管理費が年間8,000万円～1億円掛かると聞いた。あれは誰が利用するのか。市民の憩いの場所ではないだろう。そのような施設に金を掛けていくのは間違っているのではないかと思っている。

【大瀧課長】

意見として承る。

【桑山委員】

資料No.2-2の施設の中には、第三セクターが管理するものが含まれていると思うが、それと全て市の公費で運営している施設との考え方は一緒なのか。

【大瀧課長】

一覧表の施設の中では、市が直接管理運営しているものと、業務委託をしているものと、指定管理制度を利用しているものがある。委託先が第三セクターであったり、株式会社などの民間の会社であったりするが、資料にある公費負担額は、市から税金として支出している額である。例えば、指定管理制度を利用している施設においても、維持管理費と指定管理者が受け取った利用料金の差額分として市から支出した額である。

一次第3報告（3）金谷山スーパーボブスレーの営業日の変更について

【高宮会長】

次第3報告（3）「金谷山スーパーボブスレーの営業日の変更について」に入る。
施設経営管理室に説明を求める。

【丸田副室長】

- ・当日配布資料No.1により説明

【高宮会長】

施設経営管理室の説明について質疑を求める。

【石野委員】

平日の職員数が8人から3人減で5人となっている。平日はボブスレーを稼動しないため、主な仕事は公園内の草刈りだと思うが、そんなにあるのか。

また、機械の修理をしている業者から、市で乗用の草刈機が故障した時、新しい機械を買った方が安いのに修理をしていたと聞いた。何でも修理をするのではなく、財政的な部分から細かく見ていく必要があるのではないか。

【丸田副室長】

人数については、最大が5人であり、ここから土日に出勤する人が休みを取ったりする。そのため、5人いる日もあるかもしれないが、全ての日に5人いるわけではない。業務については、受託会社の勤務人数に応じて、草刈以外にもこちらからいろいろなことをお願いしながら業務をしてもらおうと考えている。

修理か購入かについては、担当課だけではなく、財政課も含めて、確認をしながら進めている。現在、予算編成の時期であるため、今の意見も参考にしながら対応していきたい。

【石野委員】

金谷山公園内の草刈りは別の業者に委託しているため、スーパーボブスレーの職員がやるような部分はないのではないか。

【丸田副室長】

資料には、スーパーボブスレーを運行するための人数が書いてある。金谷山公園

の管理委託は、スーパーボブスレーからスキーまでの1年間の業務全てを委託している。その中で、現在は平日にスーパーボブスレーを運行するのに8人配置しているが、変更後は平日にスーパーボブスレーを運行しないため5人になる。

【石野委員】

それでは、公費の支出が減ると考えてよいか。平日の収入が減額になるが、その分が相殺される、またはそれ以下になるような試算なのか。

【丸田副室長】

そのような計算になっている。委託費はおおよそで300万円減ると考えている。

【土屋委員】

名立区にもボブスレーがある。子ども連れの方は名立区に行っているように思うが、市としてその辺の棲み分けをしているのか。

【丸田副室長】

市内でボブスレーができる場所は、金谷山公園、シーサイドパーク名立、吉川スカイトピア遊ランドの3つである。吉川区のボブスレーは利用者が少なく、年間で1,000人程度である。名立区のボブスレーは結構人気で、利用者の総数は金谷山よりも多い。眺めがよいためか、県外からも問合せがある。市から「こちらへ行ってください。」といった棲み分けはしていない。同じようにPRする中で、お客様から選んでもらっている。

【伊崎委員】

現在、リフトの2人乗りが禁止になっている。これを2人乗りができるようにするためには、どうすればよいか。小さい子どもと行くと、何回か乗りたいとなるが、未満児以下の子どもは抱っこして坂を登らないといけない。ここ数年で利用者数が減少しており、特に平成24年度以降は、毎年4,000人ぐらい減ってきている。いつから2人乗り禁止になったか分からないが、そのようなところも加味しているのか。

【丸田副室長】

2人乗りの要望はある。平成28年度から2人乗りを禁止した。その年の観桜会でボートの転覆事故があり、市内の施設の安全点検を一斉に行った時に、安全面で

2人乗りがよくないと判断し、それ以降1人乗りにした。例えば、現在のリフトの支柱をそのまま使い、座るところだけ2人乗りのタイプに変えた場合、強度もそうだが、ワイヤーと支柱の位置の関係で、2人乗りの椅子では支柱に擦ってしまう。2人乗りにするには全て建て替える必要があると言われていたので、すぐに2人乗りにはできない。現在の形態で利用してもらうことで、利用者の皆さんからは理解してもらっている。

【伊崎委員】

子どもを抱っこして乗ることも、強度の関係から難しいのか。

【丸田副室長】

抱っこに関しては、安全面から禁止としている。以前は抱っこして乗っていたこともあったため、強度的には可能だと思うが、安全性については、いくら自己責任だとしても、事故が起きた場合、市の責任を問われると推測される。意見として持ち帰りたい。

—次第3報告（4）次期総合公共交通計画の策定について—

【高宮会長】

次第3報告（4）「次期総合公共交通計画の策定について」に入る。

交通政策課に説明を求める。

【木南副課長】

・資料No.3～4、当日配布資料No.2により説明

【大熊主任】

・資料No.5により説明

【高宮会長】

交通政策課の説明について質疑を求める。

【石野委員】

現在、高齢者の免許返納が問題になっているが、上越市では車がないとなかなか生活していけない。廃止になるほど利用人数が少ないのであれば、ルートを大幅に

変えて利用者を増やせばよい。例えば、高校生は現在ほとんど使っていないと聞かすが、高田北城高校、上越総合技術高校、高田高校などは、最寄りの駅から遠い。新井方面から来る学生のうち、高田高校の生徒は南高田駅で、高田北城高校の生徒は高田駅で降りる。ルートとして、斐太線や青田線を経由して、最後高田駅に着くようにすればよい。本町商店街が栄えていた頃は、本町商店街行きを利用する人が非常に多かったが、今はほとんどいないだろう。大幅なルートの変更は、国などの許可が必要なのだろうが、そのようなことも利用客を増やす方法の1つであり、例えば数か月間試行してみてはどうか。単に資料No.5にある3路線のことであれば、金谷区だけの問題だが、私は違うと思う。今、山麓線を通るバス路線は、上越大通りから来る1本だけだが、それなりの人員をどこかで拾えば、全然違うと思う。そのようなことも考えて、もう少し知恵を出したら、もっとよい結果が出るのではないかと思う。かなやの里更生園は、非常に従業員が多く、多方面から来ている。その方々は全部自家用車による通勤だろう。それは、高田駅から来るバスしかないから。それがもう少し違った形で運行されたら、もっと違うと思う。

【木南副課長】

廃止を打ち出したのは今回が初めてだが、これまでも利用実態や皆さんのニーズを聞いて、路線やバス停の位置を変えてきた。基本的に電車との接続を考えているため、今まで大きく変わったことはなかったと思う。今回の見直しは、金谷区だけではなく、13区も含めた全部の地域でやっている。その中で、廃止するところは、すぐに廃止ではなく、このようにルートを変えたらもっと利用が増えるのではないかなど、皆さんから使ってもらえるような変更も、今、地域の方と考えている。利便性の向上も大事であり、上越大通り沿いなどの利用が多いところは増便を検討するほか、まだまだ先の話だが、今バスがどこを走っているかが分かるバスロケなど、スマートフォンで情報を得られるような取組や、先ほど言われたルートの変更で利用を増やすことなど、あわせて考えていきたい。ただ、巡回する路線については、運転手の拘束時間の上限があるため、現実的にはできないこともある。ニーズを聞きながら検討しているため、反映できるところは反映していきたい。

【石野委員】

資料No.4の2枚目の「再編の基本的な考え方」に、主要幹線、幹線、支線とあるが、なぜ幹線と支線に区総合事務所を入れなければいけないのか。区総合事務所には、月1回も行かないだろう。幹線の中に区総合事務所を入れる必要はないのではないか。病院、スーパーマーケット、学校などが主要施設になると思うため、そのようなことを考えた方がよい。逆に、市で住民票や印鑑登録証明書を届けてくれるようなサービスをした方が、公費の負担が減るのではないか。

【木南副課長】

幹線は、駅や中央病院などの大きな病院から総合事務所をつなぐバス路線である。13区の人々は、まず支線を使ってそれぞれの集落から総合事務所まで行き、そこでバスに乗り換えて病院などに行く。皆さんからは、「一気に行けたらいいのに」という話があるが、総合事務所を拠点にして、そこからそれぞれの集落に行く路線を作っているところである。

【石野委員】

恐らく、バスを利用する割合は高校生が一番多いだろう。学校の定員が減らない限り、高校生の利用は毎年ずっとある。学校、スーパーマーケット、主要な病院などをうまく考えた方がよい。

【木南副課長】

現在の利用者が少ない人数であっても、利用されているのであれば、すぐに廃止にはならない。小・中学生はもちろん、高校生の通学の手段も確保するよう、地域と話を進めている。

高校生については、現在、駅から100円でバスを利用できる。冬期間は高田方面の高校生がよく使うようだが、高校生にとって100円は大切なのか、なかなか使わない人が多い。そのような取組をバス事業者がしている。

【土屋委員】

資料No.5に、正善寺線の利用の特徴として、「朝、夕は飯小学校の通学利用が主」とあるが、どちらかというと昭和町方面ではなく、正善寺の子どもが主に使っているということか。

【大熊主任】

現在、正善寺線は、約半数が正善寺から飯小学校に通っている小学生の利用となっている。その他に、正善寺や昭和町方面から高田方面へ通勤で利用している方もいて、それで半々くらいである。一昨年に行った調査では、そのような結果になっている。

【土屋委員】

バス通学の子どもの立場で考えると、バスが乗合タクシーのような感じになると、乗り物のイメージが変わるので、乗り降りは大丈夫なのか心配である。

【齋藤委員】

斐太線と青田線は、新井方面と切り離し、くっつけて環状線のようにして、新たに乗り入れる場所を作るとのこと。その点では利便性が上がるかと思うが、上中田の団地から黒田小学校までの通学が結構遠い。飯小学校の場合、正善寺の人は行き帰りにバスを使える。現在、上中田にはバス路線から遠いところもあるが、今回の変更で近くなるようにしてほしい。上中田は団地が多い。子どもたちは黒田小学校までの長い距離を歩いて行く。歩いた方が健康によいのだろうが、交通事故などが起きないように、保護者の見守り活動が必要になる。乗合タクシーにするとスクールバスとしては使いにくいいため、小型バスを朝夕運行するなど、考慮した方がよい。他の人もまた使いやすくなるだろうし、保護者も助かる。

また、正善寺線は乗合タクシーが提案されているが、個人的には仕方がないと思っている。使いやすいようにしてもらおうとのことだが、できれば本数はある程度欲しい。土日も運行してもらい、小さくなくても便利になったとなるようにしてほしい。そのアイデアを市から出してほしい。

【木南副課長】

スクールバスについては、距離や安全面などの基準があり、どこでも運行できるものではない。他の地域では、スクールバスに一般の利用者が混乗しているところがあるが、担当の学校教育課と連絡を密にしながら運行している。そのため、導入できるかどうかは答えられない。ただ、上中田のショッピングセンターへの乗入れができればよいと考えている。これは結構大きな変更になるため、時間を掛けて、具体的にどのような路線がよいか、利用する方を大事にしながら、現在利用してい

る方の利便性が低くならないよう、より利便性が高くなるよう、いろいろ協議しながら決めていきたい。その時に、皆さんから協議の場に来てもらうこともあるかと思う。

一次第4議題（1）飯公民館での出張地域協議会の議題について—

【高宮会長】

次第4議題（1）「飯公民館での出張地域協議会の議題について」に入る。

次第3報告（4）で、路線バスの現状などについて市の説明を聞いた。来月の出張地域協議会では、地域住民の意見を伺いたい。具体的には、正善寺線バス利用促進協議会の方を呼び、現状や今後に向けた課題など、地域の意見を直接伺いたいと考えている。その上で、地域協議会として意見書を市に提出すべきことがあれば、検討していきたい。

- ・出張地域協議会の進め方について、質問・意見を求めるがなし
- ・飯公民館の出張地域協議会の議題は、正善寺線のバス路線について地域住民の意見を伺い、それを基に委員で協議する内容とすることを諮り、委員全員の了承を得る

一次第4議題（2）防犯協会・交通安全協会の所管区域について—

【高宮会長】

次第4議題（2）「防犯協会・交通安全協会の所管区域について」に入る。

前回の会議では、金谷・神山町内会、飯地区・灰塚地区防犯協会、交通安全協会飯支部・灰塚支部に意向を確認することになっていた。その結果について報告する。

- ・前回の会議では、防犯協会と交通安全協会の両方の所管区域を同時に変更する方がよいとの意見があったが、両方同時に変更すると複雑になる可能性があるため、今回は防犯協会の所管区域のみ変更するのがよいと考えた。
- ・金谷・神山町内会長に確認したところ、灰塚地区防犯協会から飯地区防犯協会に

移行したいとの意向であった。

- ・防犯協会の所管区域を変更することについては、各防犯協会・交通安全協会の会長等から了承を得ている。
- ・金谷・神山町内会の飯防犯協会への移行は、来年4月の飯地区防犯協会総会での承認をもって正式に決定される予定。
- ・黒田小学校、高田西小学校への説明は、今後行う予定。

以上の説明について質疑を求める。

【齋藤委員】

前回の会議では、当初は川住副会長から防犯協会の区域を先行して変更するという話になったが、そこからいろいろと検討し、交通安全協会も同じエリアであるため、やはり一緒に変更する方がよいという意見があった。それぞれ別々の組織であるため、とりあえず今回は別々にやってもよいと思うが、交通安全協会の三役に話をしていないのか。

【村田副会長】

交通安全協会灰塚支部の会長は、金谷町内会の近藤彰治氏である。金谷・神山が抜けるとなると、交通安全協会灰塚支部の会長が不在になってしまうため、交通安全協会はひとまず置いておいて、防犯協会のみ先行しようという話で落ち着いたと聞いている。

【高橋委員】

防犯協会と交通安全協会を同時にやらないと具合が悪いのではないかと。防犯協会と交通安全協会の区域が違っているというのは、何かおかしい。

【川住副会長】

灰塚地区防犯協会の総会において、金谷・神山町内会から、「場違いな感じを受ける。」という話があった。防犯協会の場合、小学校で活動することが多い。この2町内については、高田西小学校へ子どもたちが通っているということで、飯地区防犯協会へ移行した方が何かと都合がよいのではないかと。また、交通安全協会については、今のところ移行したいという要望は一切来ていない。近藤会長においては、20年以上毎日街頭に立って、非常に一生懸命活動されており、皆さん大変満足して

いる。交通安全協会の区域も同時に変更するのは理想だが、同時に話を進めようとすると、駄目になる可能性がある。要望が出ていることに対して、1つずつ解決していくしか方法がないのではないか。そのため、今回は防犯協会の区域の変更のみにしてほしい。

【高宮会長】

- ・今回は防犯協会の区域の変更のみを進めることでよいかどうか確認を求め、委員全員の了承を得る

—次第5 事務連絡—

【高宮会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・今後の日程

第7回地域協議会：11月27日（水）午後6時30分から 飯公民館
委員駐車場については後日案内

- ・配布物

金谷区地域活動支援事業に関する意見の提出について（依頼）

「地域協議会による再度の見直し」状況

地域活動フォーラムチラシ

【高宮会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。